

## 第1回 都市づくりのグランドデザイン庁内検討委員会 議事概要

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

只今から、第1回都市づくりのグランドデザイン庁内検討委員会を開催します。本日進行を務めさせていただきます都市整備局都市づくりグランドデザイン担当部長の五嶋です。よろしくお願いいたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきます。配布資料につきましてはお手元の次第、資料1から資料4になります。また参考資料としまして、東京都都市計画審議会の答申骨子を机上に配布しております。不足がある場合はお申し出ください。よろしいでしょうか。

それではまず最初に本会議の委員長である都市整備局技監の上野から挨拶をさせていただきます。

(都市整備局技監)

おはようございます、都市整備局の上野です。本日は年度末のお忙しいところ都市づくりのグランドデザインの庁内検討委員会にご出席頂き誠にありがとうございます。

グランドデザインにつきましては昨年9月に東京都都市計画審議会から頂きました答申を踏まえて作成するものでございます。その答申取りまとめにあたりましては、本日ご出席の各局の皆様にも幹事として都市計画審議会にご出席頂きまして、ありがとうございました。改めて深く感謝申し上げます。

昨年12月に策定された2020年に向けた実行プランにおきましては、Beyond2020にて東京の未来像が描かれています。都市づくりのグランドデザインにつきましては2020年大会の先を見据え、東京が持続的に発展していくための重要な方針となるもので、知事からもしっかりと取り組むようにと指示を頂いているところです。

長期的には人口減少が見込まれまして、高齢化も一層進展いたします。一方、幅広い分野での技術革新も見込まれております。また2040年代には三環状道路が概成するなど、首都圏における人やモノの流れがより円滑になり、空間にゆとりが生まれてくるということも想定されております。グランドデザインでは2040年代の都民生活や社会のイメージを想定した上で、東京のあるべき都市像を描きまして、その実現に向けて今から何をしなければいけないのか、何に取り組むのかといったことを示していきたいと考えております。都民が安心して暮らし、希望と活力を持てる東京、東京の明るい未来の実現に向けまして、その道筋を示していきたいと考えております。

その際、留意する点を三つ申し上げます。

一つ目は、都市インフラなど既存のストックを十分に活用すること。また、道路、公園といった公的空間をその周辺も含めて柔軟に活用すること。

二つ目は、公共の力だけではなく都民や企業、事業者などの民間の力をこれまで以上に引き出し、そういった方々の参画を得ながら、その力を活用すること。

三つ目は、ハードの取組のみならず、人々の暮らしに関わる産業や経済、医療、福祉、芸術文化など幅広い分野の取組と連携・連動いたしまして、魅力的な都市空間を創り、それを維持・管理して都民生活を支えていくこと。

こういった点に留意しながら都市づくりのグランドデザインの検討を行いたいと考えております。

本委員会におきましては皆様の活発な議論を頂きまして、分野横断的な新たな取組、これまでの延長線を越えた取組を新たに示していきたいと思っておりますので、何卒ご協力をよろしくお願いいたします。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

ありがとうございます。それでは続きまして議事に入ります。まず最初に、都市づくりのグランドデザイン、行政計画のたたき台について都市政策担当課長から説明いたします。

(都市政策担当課長)

事務局の都市政策担当課長の長尾でございます。よろしくお願いいたします。

資料2、3を一括してご説明させて頂きます。まず資料2をご覧ください。現時点の都市づくりのグランドデザインの構成案です。現時点ではオーソドックスな構成としていますが、見せ方の工夫等で、行政計画とする際には入れ替えなどを行う可能性はあります。

まず最初に、グランドデザインの役割です。それから二番目として2040年代の社会のイメージ、都民の活動イメージも示し、こういったものを前提に、三番目で東京が果たすべき役割、四番目で目指すべき新しい都市像、五番目で都市づくりの方針と具体的な取組を示しています。六番目では、区市町村の皆様が参考になるような、地域の姿を示し、最後に、都市づくりのグランドデザインの実現に向けてということで、こういったプロジェクトを動かしていくのかについてもお示しできればと考えています。

続いて資料3をご覧ください。今ご説明した構成に沿って、整理をしています。

1 ページ、「位置づけ」ですが、これは2040年代に向けた目指すべき東京の都市の姿と、都市づくりの基本的な方針を示すものです。これまで都市づくりビジョンがございましたが、それを含んだ形でさらに大きく示していくというものです。本計画は、目指すべき都市の姿、戦略を明らかにすることに主眼が置かれております。その策定に必要な財源やスケジュールを詳細に規定するものではないということもご理解頂ければと存じます。

次の目標時期につきましては、リニアの開業や三環状道路の概成など、様々な社会変化に対応するということで、2040年代を目標時期として設定しています。

3 ページをご覧ください。2040年代の社会のイメージです。都市づくりを考えるにあたって、2040年代がどういう社会になっているのだろうということで、人口が減少するということはあるのですが、そういった中であって明るい未来を実現していく、次世代にしっかり繋いでいくということを基本的な考えにしながら、社会構造の変革や技術革新によるパラダイムシフトが実現することも想定して、経済活力とゆとりが両立した成熟社会のイメージを示していきたいと考えています。この部分につきましては政策企画局とも調整をさせて頂きたいと考えております。

その下、前提となる東京の人口予測ですが、この部分は実行プランで示された人口推計をベースにさせて頂いております。

5 ページをご覧ください。2040 年代の社会のイメージについて、先ほど申し上げたような明るい未来ということをイメージしながら書いているところです。(1)としては、世界の人々の往来がこれまで以上に活発化してくること。(2)としては、高齢者と子育て世代の社会参画が更に進んでいること。(3)としては、価値観やライフスタイルの多様化が更に進んでくるということをお示しています。

6 ページをご覧ください。(4)としては、さらに成熟都市にふさわしい創造的な芸術・文化活動が増加してくることや、(5)としては、自然災害や新たな危機への対応が十分に出来ているということを押さえつつ、社会のイメージを持っていきたいと考えています。

7 ページをご覧ください。新しい技術についてです。これは様々な場所で耳になさっている部分かと思いますが、自動運転の普及、再生可能エネルギーの活用、人工知能の産業や福祉分野などへの幅広い導入といったものを考えています。

8 ページをご覧ください。情報通信技術について飛躍的に革新が進み、移動や働き方などを大きく変えていくといったイメージをしています。

10 ページをご覧ください。このような状況を踏まえまして、都民の活動イメージを示しております。ここは5つ示しておりますけれど、まず一つが誰もがチャレンジできるということです。

11 ページで更に子供や高齢者、障害者、外国人も含めて、あらゆる人がいきいきと活動をしていることをイメージしています。

12 ページをご覧ください。ライフスタイルが選べる、平日休日という感覚を持たずに自由にゆとりを持って働いているということ、個人の価値観やライフスタイルに合わせて暮らし方を選ぶことが出来るといったことを示しております。

13 ページをご覧ください。自然に親しむことが出来る、東京の魅力のひとつでもある恵まれた自然について、今まで都市部の中であまり身近になっていない側面があったかと思います。そういったものを、身近に感じて健康的な生活を楽しめるようになるということを示しています。

14 ページをご覧ください。安心して住み続けられる、安全・安心な環境の中で東京らしさを感じながら暮らしていく、などの活動イメージを都市づくりの前提として示しています。こちらも、Beyond2020 の方向性に合わせたいと考えています。

15 ページをご覧ください。東京が果たすべき役割です。世界や日本における役割を、有識者の方にも議論して頂いて示しているものです。世界における役割としては、包容力を持ち、多様な人々・文化の交流を育んでいくということ。人口減少等の課題が顕在化してくる東京が、都市課題の先駆的な解決モデルを構築・発信するという。それから伝統と先進を融合させ、新たな価値を創出していくということ。これらを世界における役割としてお示ししているものでございます。

17 ページをご覧ください。日本における役割ということで、これは引き続き日本の首都として経済活力の推進力を発揮して日本を引っ張っていくこと。それから二つ目として、様々な地域と連携して、一層魅力的な日本を創造・発信するということを示しています。

18 ページをご覧ください。ここでは目指すべき新しい都市像を示しています。都民や企業、行政など幅広い関係者が、世代を越えて共有できる都市づくりの目標を示したいと考えております。地球環境と調和していくこと。急激な社会変化に柔軟に対応できるシステムを整えること。更に

は新たな価値を生み続ける活動の舞台として世界の人々から選択されていること。それからあらゆる人が活躍でき、多様な働き方を選択できることなどの考え方に基づいて、「活力とゆとりが両立する環境先進都市・東京の創造」というものを（仮）として示しております。今後調整を進めて、正式な目標を決定していきます。

19 ページをご覧ください。目指すべき都市構造の考え方です。これまで環状メガロポリス構造を掲げて整備が進んできていますが、広域的にはこの概成する環状メガロポリス構造を最大限使っていく。それから地域的には、都市経営の観点からコンパクトな地域構造を作っていくという、この広域と地域の二層構造を考えていきたいと思います。

また、20 ページの一番上のところで、都心で受け切れなくなった業務機能を副都心等で受けていくという業務機能の受け皿の考え方から脱却して、拠点の魅力を最大化することを示していきたいと考えています。こういった考え方で広域的なレベルの都市構造としては、交流・連携・挑戦の都市構造をお示ししています。21 ページにその図がございまして、三環状道路が出来上がってくる時代を見て、より広域的に、物流の集積などは北関東自動車道寄りにシフトが始まっているといったようなことも踏まえて、環状メガロポリス構造を発展させていく。今までどちらかというと道路を中心に都市構造を考えてきたのですが、鉄道も含んで人口減少社会にあっても自由自在な交流、移動を可能とし、挑戦しやすい都市構造を作っていくイメージでいます。

24 ページをご覧ください。地域レベルの都市構造についてです。集約型の地域構造というもので、人口減少、少子高齢化社会の中で、駅などを中心にコンパクトで効率的な地域構造をつくっていくということで、このように考えています。イメージの図を 25 ページにお示ししています。

28 ページをご覧ください。今後成熟都市として魅力を引き出していくためには、地域が持っている個性を更に際立たせていく地域づくりが重要になってくること。さらには複合的な土地利用をどう誘導していくかということについても、今後考えていきたいと思っています。

29 ページをご覧ください。地域区分につきましては答申でお示した 4 つの地域区分の考え方を継承しています。30 ページに記載しております中枢広域拠点域というのが、これはセンターコアと呼んでいた部分が、地下鉄ネットワークなどを考慮しながら環七まで広がり、臨海部も一体化してくると考えています。それから都市環境共生域は、中枢広域拠点域の外側の部分ですが、土地利用の特性、地域特性を勘案すると、武蔵野線くらいまでが大きく同じような特性を持っているということで、そこまでをイメージしています。そこから先、多摩広域拠点域は、先ほど都市構造で示した多摩の広域拠点を示しております。圏央道より西側の部分については自然環境共生域ということで、自然をどう使っていくのかというような視点で考えているところです。その中に都心部にはエンジンゾーンといって、国際ビジネス交流ゾーン、ここは世界のトップ企業が本社機能を持って、旺盛なビジネス活動が行われるような場所にしていく。二つ目が、多摩イノベーション交流ゾーンで、こちら新たなエンジンとして育てていく。インフラが整ってくる時代に備えて、世界中からチャレンジできる場として、技術者や投資を呼び込んでいくようなエリアにしていきたいということをイメージしています。

35 ページをご覧ください。都市づくりの方針と具体的な取組について示しています。方針 1 は経済活力、方針 2 が自由自在な交流、方針 3 が災害・環境への対応、方針 4 が暮らしの場の提供、方針 5 がコミュニティ、方針 6 が緑と水、方針 7 が芸術・文化・交流というような、方針ごとに

目標を示して整理をしたいと考えています。

36 ページをご覧ください。まだ絵姿はないのですが、今後作っていくイメージを示しています。方針 1、「持続的な成長を生み、活力にあふれる都市を形成」の、将来のイメージを左上に文字で載せております。その下に目標とする水準として具体的なものを、各局のお手を借りながら整理していきたいところです。今後ともよろしくお願いいたします。

更に図表としては、方針ごとの背景を説明する図表を掲載するなど、こういった方針ごとの整理を 7 つの方針について行っていくということを考えています。

50 ページからは方針ごとに主要政策をお示ししています。ここには 29 の政策を示していますが、今後調整していく中でまとまるものもあろうかと思っています。今の時点のものとしてご覧頂ければと思います。

52 ページをご覧ください。方針 1 について、主要政策の 1、世界をリードする国際ビジネス交流都市であり続けること、これは区部の中心部のイメージです。リードの部分で将来に向けた考え方を示しています。区部の中心部を世界にリードする高度なビジネス企業を集積させることと、芸術・文化など多様な機能を取り込み、時代を先取した魅力的な都市環境を充実するというものです。取組を大きく 3 つ整理しています。取組 1 では、複数の国際ビジネスセンターが持続的な経済成長を牽引することを記載し、取組 2 では、そういった経済成長を支える高密度なインフラをしっかりと充実させていく。取組 3 では、起業家や外国人が魅力を感じるような都市環境の整備というように、この主要政策の 1 つをこの三つの取組でおおむね進めるような整理の仕方をしていきたいと考えています。イメージとして 1 つ例をお示ししましたが、ここから主に庁内各局と調整させていただきたいところを中心にご説明いたします。

54 ページをご覧ください。主要政策の 2、新たな価値を生み出すイノベーション創出都市を目指す、についてです。これは多摩地域のイメージですが、例えば取組 1 で、大学や研究機関の集積を生かし、新たなイノベーションをどう作るかなどを示しています。ここは主に総務局と調整をお願いしたいという部分です。

続いて 59 ページをご覧ください。空港関連についてです。取組 3 の部分で、島民生活の安定と自立的発展を支えるとして、島しょ部への空と海のアクセスが充実している点を書いています。こちらについても総務局と調整をお願いしたい部分です。

70 ページをご覧ください。主要政策の 11 で、最先端技術を活用した情報都市空間を形成するというものです。取組としては一人ひとりに情報のおもてなしをするということで、プラットフォームを作ることや最先端技術を活用していくことなどを示しております。こちらも総務局や政策企画局との調整をお願いしたいと考えています。

続いて 75 ページをご覧ください。主要政策 13 の電柱の無い安全で美しい都市をつくるということにつきましては、取組の中で国道や都道など主要な道路から電柱を無くす。次のページで身近な地域でも電柱の無い道路空間を創出するという取組を挙げています。この部分につきましては、建設局と今後の調整をお願いしたいと考えています。

79 ページをご覧ください。主要政策の 15、都市インフラを将来も健全に使い続けるという部分につきましては、財務局、更にはインフラをそれぞれ管理されている関係部局と調整をお願いしたいと考えています。

それから 80 ページをご覧ください。都市全体でエネルギー負荷を減らすというところで、取組としては、都市開発の機会を捉えて、エネルギー利用の高効率化を進めること、再生エネルギーを導入していくことを書いています。この部分については主に環境局との調整をお願いしていきたいと考えています。

82 ページをご覧ください。循環型社会の部分ですが、特に取組 2 のところで森林循環の促進に貢献するということです。この部分は産業労働局と調整をお願いしたいと考えています。それから取組 3、都市の資源を無駄なく使うについては、環境局との調整も出てくるのかなと考えているところです。

93 ページをご覧ください。主要政策 23 ですが、あらゆる場所で緑を感じられる都市をつくるについては、取組として活発な都市活動と豊かな生態系を両立する、エコロジカルネットワークにも言及しています。環境局など含めて色々ご指導頂きながら、内容を充実していきたいと考えているところです。

94 ページをご覧ください。豊かな自然を活用し都市の魅力を向上するというところで、先日、議会の中でも葛西臨海公園についてラムサール条約への登録などの話が出てきています。そういった動きを踏まえながら、どういった書き込みが出来るのか、港湾局と調整をお願いしたいと考えています。

95 ページをご覧ください。水辺を楽しめる都市空間を形成する、水辺に顔を向けたまちづくりを推進するなどを示しているところです。ここは港湾や河川と関連して参りますので、港湾局、建設局と調整をお願いしたいと考えています。

続いて 97 ページをご覧ください。主要政策の 25 です。都市農業が産業の一翼を担い東京の活力を担っている、農地を保全し次世代に引き継ぐなどを示しておりますが、これにつきましても環境局との調整を今後お願いしたいと考えています。

100 ページをご覧ください。主要政策の 27、観光都市として選ばれ続けるということにつきましても、都市の多様なストックを観光資源として活用することや、芸術・文化などの活動を世界中から呼び込むなどの取組をお示ししています。これにつきましては生活文化局や産業労働局を中心に調整をお願いしたいと考えています。

104 ページをご覧ください。主要政策の 29、東京 2020 大会の競技施設を様々な角度から生かすということにつきましては、東京臨海部を新たな一大スポーツゾーンにする。取組 2 では、神宮外苑地区ににぎわいと風格を兼ね備えた世界に誇れるスポーツ拠点を形成する、取組 3 では武蔵野の森地区をスポーツとにぎわいの拠点にするということをお示ししています。ここもオリンピック・パラリンピック準備局や建設局、それから港湾局と調整をさせて頂きたいと考えています。

主立った局間調整についてご説明いたしました。今後引き続き、関係各局のご協力をお願いしたいと考えています。説明は以上です。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

ただ今の説明内容につきまして今後各局に意見照会を行っていくわけですが、この場でご意見あるいは質問等ございましたらお願いしたいと思います。

(建設局企画担当部長)

建設局でございます。お伺いしたいのですが、57 ページに地域軸のイメージというものがありまして、そちらと道路交通ネットワークとの関係をお伺いできればと思っております。

もう 1 点、62 ページですが、道路のイメージということなのですが、環七、環八と例示しているかと思いますが、その理由について教えていただけたらと思います。

最後、72 ページですが、いわゆる木密地域の道路整備ということで、用語として特定整備路線という言葉が見当たらないということで、理由がありましたらお答え頂ければと思います。

(都市政策担当課長)

まず 57 ページの地域軸ですが、これは一番下のところにイメージを三つ描いています。一番左側、都市機能の集積に着目した地域軸というのが、例えば金融軸といった産業の集積などを連坦させ実現していくもので、何パターンかあると思っています。真ん中部分が人の往来の活発化に着目した地域軸ということで、例えば交流軸周遊ネットワーク、ご指摘の道路については人の移動に着目したというところで実現できる、拠点間の連携軸をつくるということが考えられると思っております。水と緑のネットワークに着目したということについては、例えば玉川上水や崖線など緑で覆いながら繋いでいく。周辺の都市計画公園の整備と併せて相乗効果を出し、都市に潤いを与えていくということも出てくると考えています。また、公園と公園をつなぐ道路を緑化し、軸として繋いでいくということも今の時点では考えています。

それから 62 ページのリメイクのところなのですが、これは局内でも色々と議論をしています。環七、環八という書き方は、特徴的に負荷がかかっている道路というイメージでいます。今、東京外環がまだ出来上がっていないことや、中杉通りが検討中であるとか、それらが将来出来上がる時代になると、環七、環八のような道路が本来の機能を担うことができる。現在、一部 6 車線のところもあるのですが、4 車線で間に合うという時に、残ったスペースを緑やゆりの空間、歩道空間ということで使っていく、緑のネットワークを取り戻していくということで象徴的に例示を入れていきたい。都民に分かりやすく、どこでどのような活動を考えているかは例示で伝えていきたいという思いで載せています。

それから 72 ページの防災のところで、特定整備路線という書き方はしていませんが、今後整備を進め、特定整備路線が出来上がって、既に 2040 年代にはそういう呼び方ではなくなっているのかどうかということも教えて頂きながら、適切な表現に変えていくということが重要と思っています。以上です。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

ありがとうございました。他にご意見等はございませんでしょうか。

(港湾局企画担当課長)

港湾局でございます。確認ですが、具体的な拠点ごとの将来像についてはどの程度書くおつもりなのか、現時点での例示をお示し頂ければありがたいです。

(都市政策担当課長)

拠点につきましてどの場所がどういう拠点になるかについては、今の時点でまだ調整中の部分になります。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

よろしいでしょうか。今後、意見照会をさせて頂きながら色々なご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは続きましては、今後の流れについてご説明させていただきます。資料4をご覧ください。

本日、第1回の検討会の後、各局に意見照会をさせていただきます。それから、5月の上旬くらいに第2回の検討会を行いたいと考えています。そこにつきましては、都市づくりのグランドデザインの素案という形でお示ししたいと考えています。その後、第2回の意見照会を踏まえまして素案を公表し、パブリックコメントを実施いたします。公表後は、区市町村への意見照会等も実施しまして、7月に第3回の庁内検討会にて最終案として取りまとめ、その確認をしていきたいと考えています。そして8月頃に都市づくりのグランドデザインとして策定・公表していくという考えでございます。

(都市政策担当課長)

意見照会につきましては、個別にお問合せを頂きながら丁寧に説明をさせて頂きたいと思っています。基本的には該当する企画の部署を通させて頂いて、各局内で検討調整をして頂くというイメージでございます。年度当初のお忙しい時期だとは存じますが、是非ともご協力をよろしくお願いいたします。

(都市づくりグランドデザイン担当部長)

今後の進め方、全体を通して何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

それでは本日の委員会は以上で終了したいと思います。次回は5月11日木曜日の開催を予定してございます。詳細は事務局からまたお知らせしますのでよろしくお願いいたします。

— 了 —